

平成21年 3月31日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006年度 2007年度 2008年度

課題番号：18592460

研究課題名(和文) 看護学生の老化の理解を深める有効なエイジングメイクアップ  
教材開発研究課題名(英文) Effective make-up procedures in the study  
of aging by nursing students

研究代表者 横山 ハツミ

広島国際大学・看護学部・講師

20280076

研究成果の概要：看護学生の老化の理解に役立つエイジングメイクの技法(メイク道具と手順)と教材(DVDとライフイベントCAIゲーム)を開発した。この教材を用いた演習により、学生が老ける、衰退するなどの加齢のプロセスを体験することで、いずれ訪れる老いを偏見なく受容することができる。高齢者のフィジカル・メンタルの両側面から理解が深められ、高齢社会の主人公である高齢者ケアニーズの核心に迫る、主体的な学習教材として役立つ。

交付額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2006年度 | 2,500,000 | 0       | 2,500,000 |
| 2007年度 | 600,000   | 180,000 | 780,000   |
| 2008年度 | 500,000   | 150,000 | 650,000   |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 3,600,000 | 330,000 | 3930,000  |

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：高齢者 エイジング、メイクアップ、シミュレーション、学習教材、  
模擬体験、CAI、ライフイベント

## 1. 研究開始当初の背景

老年看護学の教育方法のひとつとして老年体験装具を用いて生活行動の不便や不自由を体験する演習方法に関連した質的、量的研究は数多くの看護系、医療系大学で取られ、その工夫と研究の成果は報告されている。しかし、エイジングメイクを取り入れた老年体験学習方法の報告はなされていない。一般に老人メイクは演劇や映画の特殊メイク手

法として高い技術や特殊な道具を必要とし、コストもかかるため誰もが手軽にという訳にはいかない。とくに、医療、看護における教育分野への応用は未開発な現状にある。

我々は先の研究(2004-2006 基盤研究C：15592349)において、看護学生が現代を生きる高齢者の理解を深めるために有効な「ライフイベントゲーム CAI」ソフト学習教材の開発を行った。その過程で老年装具や衣装、カツ

ラを装着させて高齢者の外見的、内面的理解を促すよう試みたが、カツラや衣装の利用は学生の若さを際立たせることになり効果的ではなかった。そこで、プロの美容師の協力を得て、体験学生の顔にシミやシワ、クスマなどいわゆる老人メイクを施したところ、演習後のアンケートから、このような試みは、学生が高齢者の自己イメージを形成する上で非常に有効であることを示唆する結果が得られた。しかしながら、エイジングメイクアップは通常のメイクとはいささか異なり、高い技術や特殊な道具を必要とし、コストもかかるため、数10名から100名をこえる通常の演習・授業で実施するには様々な困難がある。

## 2. 研究の目的

- (1)現代を生きる高齢者の外観的特徴(顔、皮膚の変化、動作など)とアンチエイジングのための生活行動について明らかにする。
- (2)青年期の看護学生が老年期の老化の理解を深めるために老人メイク(エイジングメイク)手法を開発し学習教材を作成することである。
- (3)老年体験の教材としての資材、技法の簡易化、低コスト化を図る。
- (4)エイジングメイクを施した学生の心理的变化を分析することにより高齢者のケアニーズに役立つ学習教材として有効であるか活用範囲について明らかにする。

## 3. 研究の方法

- (1)1年目：①平成を生きる高齢者の外観的皮膚の変化と老化に対する生活行動の特徴と実態調査を行い、皮膚の加齢変化、シワの出現部位表情筋のタルミ、シミの出来方などを調査し、老人メイク方法の参考とする。②プロのメーキャップアーティストの協力を得てあっさりタイプ・こってりタイプなどメイク技法の調査分析を行う。学生がイメージする成りたい老人像を基にエイジングメイクの進め方リーフレット作成のための準備を行う。③メイク道具の工夫を行う。(使いやすい道具の選択と工夫・必要物品・化粧品の厳選・簡便なメイクBOXの改良・安価なコスト化)老人変装用衣装、カツラの簡便な使用方法の工夫を行う。
- (2)2年目：①.学生が描く老化の自己像パターンの作成と画像集録を行う。②.エイジングメイクの進め方、工夫をまとめたリーフレットを作成する。③.皮膚の変化・シワの出現しやすい部位、表情筋のタルミ、シミのできかた。日焼け・目袋・老人メイクあっさりタイプ・こってりタイプに分類する。④.メイク道具の工夫・必要物品・化粧品の厳選・使いやすい道具の選択と工夫・簡便なメイクBOXの改良・安価なコスト化・老人変

装用衣装、カツラの簡便な使用方法の工夫  
⑤エイジングメイク技術の演習では、プロによるメイクから学生によるお互いのメイク法に移行させる・さらに自己メイクへと進化させる。

⑥身体的な変化(エイジングメイク・顔)による老化の理解・および視覚的变化による老化の心理面の変化が理解できたかを調査する。メイク有群とメイク無群によるCAIゲームの反応の違いを比較分析する。また、メイク後の老年体験による学生の心理的变化を測定、評価する。

⑦倫理的配慮：学生の主体的な自由参加を呼びかける。特殊メイク材料は皮膚の過敏性問診チェックを行う。

## 4. 研究成果

- (1)1年目：①H県下の高齢者400名を対象として高齢者の加齢による外見的皮膚の変化と生活行動について実態調査を行った。男女共、老化予防としては水分を多く取る、日焼けしない、入浴による皮膚の清潔を心がけ、毛髪の手入れでは女性はシャンプー、リンス、トリートメントを使い、男性は帽子をかぶることを生活のなかに取り込んでいた。②男性の方が顔の加齢変化には満足しており、若いころ描いていた老人像に近づいていることを意識していることが示唆された。③プロによるエイジングメイク体験によって、学生が描く老化の自己像イメージや価値観は高齢者が描く老人像(ライフスタイルを大切に家族と円満に暮らす)や価値観(健康で自尊心、思いやりがある、自分らしく生きる)に近く変化を示していることからエイジングメイクの効果が明らかになった。

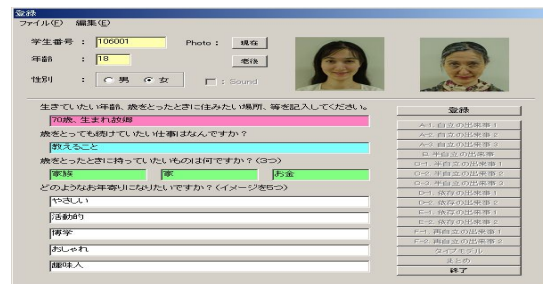


図1 エイジングゲーム 2006

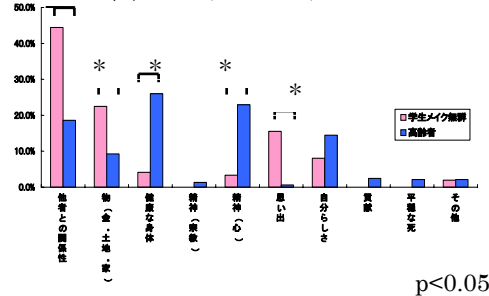


図2 CAIゲームによる学生と高齢者の価値観の比較

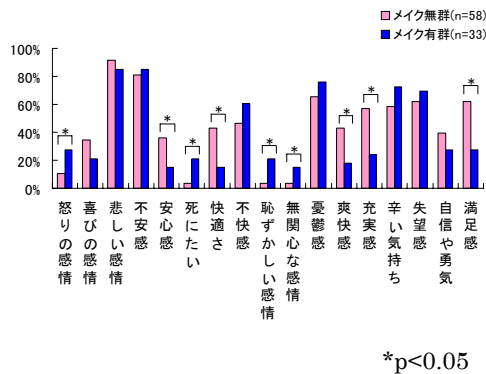


図3 自立場面の感情体験の比較

(2) 2年目：①エイジング・メイクアップの演習と手法の開発として、専門家による肌の老化の基礎知識と加齢の変化の講義の後、演習ではアンチエイジングとエイジングメイクを比較しながら、エイジング・メイクの進め方、工夫のガイドブックを作成した。②プロメイク群と学生によるセルフメイク群に分けて体験を行った。

表1 客観的観察群の老化の自己像

| 観察項目  | ネガティブな反応                                       | ポジティブな反応  |
|-------|--|---|
| 全身像   | 髪が薄いのが気になる。<br>前傾姿勢になる。<br>小さく見える。さびしい。        | 年齢に応じた身なりを整えたい。<br>歳をとることを自覚する機会となった。             |
| 話し方   | ゆったりとした口調になる。<br>声のトーンが低くなる。<br>人と話したくない。      | 歳を重ねても話し方は変わらないと思う。<br>目を見て話すことが大切。               |
| 動作・仕草 | 「よいしょ」と言いたくなる。<br>直ぐ、座ろうとする。<br>手を腰の後ろで組んでしまう。 | 自然に足元に視線が行く。<br>支えを探し、転倒に注意する。<br>動ける間は働いた方が良く思う。 |
| 表情    | 暗い表情になる。<br>笑顔が少なくなる。<br>笑うとシワが多く気になる。         | 母親や祖母、祖父に似てきた。<br>表情が豊かになった。<br>穏やかな表情になった。       |

メイク後のイメージンググループで自己の表情、姿勢を鏡に映し客観的観察した結果、「鏡を見たくない、気分が落ち込む、外出したくない」などのネガティブな感情だけでなく、「将来の姿が想像できた、変化する姿が楽しみ、高齢者が気になる部分があった、表情が豊かになった、祖母に近づいた気がする」

などポジティブな老化の体験感情を獲得している。



資料1

③更にエイジングゲーム後に「老年期の喪失体験には抵抗や葛藤はあるが、配偶者と共に自分らしく生きる」と回答した。セルフメイク群の「老性の自覚」では「心身の不調、」が「老年期の適応」では「葛藤はあるが受け入れられる」「自分らしく生きようと思った」が高かった。

④セルフメイク群では「積極性の低下」に有意な変化(p<.05)が認められた。プロメイク体験ではシミ、シワ、クスマなど高齢者が他者に見られたくない部分を人工的に作り出すことが理解できる。しかし、学生にとって老年期は遠い存在であり、加齢の知識を得るだけでは容易に受け入れがたい。

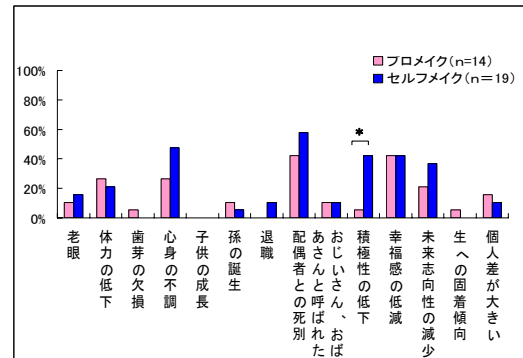


図4 老性自覚の体験

⑤セルフメイクによって自分でシワやシミを描き、衣装を着けることで老化のリアリティが増し、年老いた自分を想像することができる。セルフメイク法は学生の「老性の自覚と適応体験」を促進させるメイク技法であることが確認できた。学生が老化の自己像を実現するセルフメイクに必要なメイクのポイント、手順、道具の工夫ができた。

(3)3年目：エイジングメイクを施した学生の体験感情や心理面の変化を分析し、高齢者の内面的理解とケアニーズの対応に役立つ学

習教材の検討を行うことを目的として以下のことを実施した。

①高齢者の理解を深めるエイジングメイクを施した学生16名(男性4名女性12名)の心理状況を明らかにする目的で、メイク後に4名の小グループに分けて「模擬老人会」を行った。さらに合同で学生の体験感情や老年観について発表させ、ラベルワーク(参加型学習技法)による分析を行った。

②その結果、学生は高齢者の心身機能や構造の加齢変化によるネガティブ、ポジティブ両側面に触れ、老後の生活を具体的にイメージ化し、充実した生活を送るためには家族の手助けを得て活動や社会参加することの重要性や、老化の捉え方によってQOL(生命、生活、人生)は変化することに気づくことを容易にする効果がある。さらに、ラベルワークは学生が主体的に学習する有効な演習方法であることが確認できた。

③これまでの個別的な老化の体験学習からラベルワークを用いたグループ学習は、学生間の意見交換を行うことで、高齢者は対象への関心、興味が薄れ、心的エネルギーが低下しやすいという「老いの内面的特長」の理解を深めることに役立ち、学生は新たな老年観を纏めることができた。

④エイジングメイクの手法として顔面だけでなく、頸部、前腕、手背にメイク範囲を拡大することで老化のリアリティが高まり、高齢者の心理面を理解することの動機付けとして効果的であった。

⑤メイク道具、手順の工夫として使いやすい手鏡や白髪の素材の検討を行った。

⑥安価な材料費と必要なメイク道具の精選やメイクBOXとメイク袋の比較検討を行った。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計3件)

① 横山ハツミ、林慎一郎、田中秀樹、西川まり子、廣川聖子、片山はるみ 看護学生の「ライフイベントCAIゲーム」における老化の感情体験 広島国際大学看護学部ジャーナル第6巻第1号 2009.27-36. 査読有.リボジトリ広島県大学共同 HARP

<http://harp.hirpshima-u.ac.jp/>

② 横山ハツミ、西川まり子、糠信憲明、地域高齢者が自覚する皮膚の老化と対処方法 インターナショナルNursing Care Research 研究会誌Vol.8,No2,2009,99-106. 査読有.

③ 横山ハツミ、西川まり子、糠信憲明、山北絵美、地域高齢者が自覚する毛髪の老化と対処方法 インターナショナルNursing Care Research 研究会誌Vol.7,No1,2008,41-47. 査読有.

[学会発表] (計8件)

① 横山ハツミ、林慎一郎、田中秀樹、西川まり子、廣川聖子、片山はるみ、看護学生の「ライフイベントCAIゲーム」における老化の感情体験—エイジングメイク有群・無群の比較 第20回日本発達心理学会 2009年3月23日 東京.

② 横山ハツミ、西川まり子、糠信憲明、山北絵美、高齢者が自覚する毛髪の老化とその対処方法 第13回日本老年看護学会,2008年11月8日, 金沢市.

③ 横山ハツミ、林慎一郎、廣川聖子、エイジングメイク語の客観的観察法による「老化の自己像」体験学習,第34回日本看護研究学会, 2008年8月21日, 神戸市.

④ 横山ハツミ、林慎一郎、廣川聖子、エイジングメイクによる老性の自覚と適応体験—プロメイク法とセルフメイク法の比較,第18回日本看護学教育学会, 2008年8月2日, つくば市.

⑤ 白木智子、横山ハツミ、糠信憲明、西川まり子、林慎一郎: 高齢者が自覚する皮膚の老化とその対処法, 第12回日本老年看護学会, 2007.11月11日, 神戸市.

⑥ 横山ハツミ、林慎一郎、廣川聖子、白木智子: エイジング・メイクアップ演習における高齢者と学生の自己像比較, 第16回日本看護学教育学会, 2007.8月10日, 福岡市.

⑦ 横山ハツミ、廣川聖子、林慎一郎: 改良型CAI教材「エイジング・ゲーム2007」を用いた学習効果—改良前・後の比較—,第12回日本老年看護学会, 2007.11月11日, 神戸市.

⑧ 横山ハツミ、林慎一郎、廣川聖子、白木智子、面本眞壽恵: 老化の理解を深めるCAI教材を用いた学習効果—「エイジングゲーム2006」演習前後の価値観の比較—, 第11回日本老年看護学会, 2006.11月4日, 東京.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他] (計2件)

(1)医学映像教育センター製作・D  
VD 高齢者のケアに役立つ「エイジングメイクアップ演習」原案監修: 横山ハツミ, 広島国際大学・看護学部・講師、原案協力: 林慎一郎広島国際大学・保健医療学部・助教授、2006.12  
(2)「改良型・エイジングゲーム2007 CAI」ゲームソフト開発・製作 2007.8.  
原案監修: 横山ハツミ, 広島国際大学・看護学部・講師原案協力: 林慎一郎

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横山 ハツミ (YOKOYAMA HATSUMI)

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号：20280076

(2) 研究分担者

林 慎一郎 (HAYASHI SHINECHIRO)

広島国際大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：20238108

田中 秀樹 (TANAKA HIDEKI )

広島国際大学・心理科学部・准教授

研究者番号：30294482

山崎 登志子 (YAMAZAKI TOCHIKO)

広島国際大学・看護学部・教授

研究者番号：50282025

西川 まり子 (NISHIKAWA MARIKO)

広島国際大学・看護学部・准教授

研究者番号：80412344

白木 智子 (SHIRAKI TOMOKO )

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号：80389098

糠信 憲明 (NUKANOBU NORIAKI)

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号：20412348

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

廣川 聖子 (HIROKAWA SHEIKO)

広島国際大学・看護学部・助教

研究者番号：30389100

片山はるみ (KATAYAMA HARUMI)

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号：90412345

矢田幸博 (YATA UKIHIRO) 花王 (株) ヒュー

マンヘルスケア研究センター

吉田 伊織 (YOSHIDA IORI) フェスタ (株)

ホリスケレイカンパニー